

温暖化防止ながれやまだより

第4号

平成23年11月号

温暖化防止ながれやま 会報

代表 平手 彰

流山市こうのす台 629-46

編集 石垣 幸子

潜在能力 太陽も風も

10月13日（朝日新聞）「野田内閣は最新の『エネルギー白書』において、前年度版まで盛り込んできた「原発推進」の言葉を削除した」とあった。

9月11日「朝日環境フォーラム」において環境ジャーナリストらをパネラーに意見がかわされた。太陽光、風力などの自然エネルギーは、石油などの化石燃料や原子力の代わりになりえるのか。日本の電力の65%が化石燃料、26パーセントが原子力で作られている。

今後、化石燃料は地球温暖化の問題、また、資源の枯渇、燃料費の高騰などがある。原子力は大震災以後、施設の新設や増設は難しい上、老朽化した廃炉費用、立地の自治体への交付金などコストは非常に高くなる。原子力も化石燃料もお金がかかる。

世界各国は自然エネルギーの買い取り制度を整え、輸出産業として育成している国もある。日本はようやく再生可能エネルギー法が成立したばかりである。国内では大震災以降、太陽光への関心が高まってきている。太陽光発電市場は8割が住宅用であるが、再生可能エネルギー法の成立により、今後は法人向けの需要も伸びると予想できる。省エネや環境に配慮する企業に加え、売電事業を始める商社も出てくるだろう。

太陽光発電を組み込んだ街づくりは省エネ意識を高め、地域が活性化するだろう。いま、もっと自然エネルギーの潜在能力を見直す時がきている。

再生可能エネルギー



太陽光



水力



バイオマス



風力

第3回市民環境講座

～太陽光発電&省エネ～



2011年9月10日（土）流山市初石公民館において、第3回市民環境講座「～太陽光発電と省エネ～」が開催された。

3月11日の大震災に続く原発事故により、私たちは改めて電気を見直し、身近なエネルギーの問題について考えさせられた。私たちは日々の生活の中で、快適さを求めてエネルギーを大量消費してきた。その結果、化石燃料の使用は大量のCO₂の排出で、地球温暖化を引き起こしてしまった。いま、私たちは

省エネに心がけるとともに、自然エネルギーに目を向けていかなければならない。

この講座ではNPO太陽光発電所ネットワーク相談員の新美健一郎氏から「太陽光発電と省エネの実践報告」を講演された。新美氏は「今までの私たちの生活は、資源、エネルギーを無駄に使っていました。すでに次世代、未来に負担をかけています。地球温暖化が原因で異常気象や気候の変動も生じています。少しでもエネルギーを節約し、省エネ、創エネを実践することが明日への助け合いにつながります」と述べられ、太陽光発電の仕組みなどをわかりやすい言葉で説明された。

そして、この講座では、太陽光発電システムを取り扱っている会社のパネルの展示があり、太陽光発電の性能や設置後の維持管理などの説明をされた。流山市の環境部より太陽光発電設置奨励金が交付についての説明があった。



第3回環境講座によせて

電気を自分で創ろう

太陽光発電と省エネの実践報告～光熱費が三分の一に

NPO 法人 太陽光発電所ネットワーク（略称 PV-Net）

千葉地域交流会世話人 相談員 新美健一郎



講座を盛会裏に終えることができ大変ありがとうございました。時宜を得たテーマ、太陽光発電取扱い3社の公演会場内出展と説明、宣伝広報活動など、企画力と総力による結果で、そのお手伝いができ幸せでした。

「光熱費が1/3」と言うような、実態のある数値でわかりやすくと心がけました。講座の効果を期待したいとおもいます。（不特定の方々に、わかりやすくする難しさを実感）

この報告ができたのも、貴会主催の省エネ市民会議で「本当はどうかを市民自らデータなどで確認する」という考えの浸透があったからと思います。

講座概要は「ぐるっと流山」に素敵にまとめていただきましたのでそれをご覧いただき、以下は講座の裏話的経緯や感想を書きました。

事のはじめは大震災3月11日の「省エネ市民会議」です。今回の講座と同じような報告をし、その質疑応答中に大地震に遭遇、その後は交通機関が全面ストップし、帰宅困難となった参加者にPV-Net 理事Tさんがいました。

大震災による原発事故後の計画停電ショックで電気エネルギー問題がクローズアップされ、急遽4月28日、東京のPV-Net 本部主催で太陽光発電の緊急集会が開催され、その中で「わが家の省エネ・創エネ報告をしました。その報告を聞き東京練馬区で自分たちの稼いだ資金を元に、保育園などに太陽光発電を設置続けているNPO法人エコメッセのSさんから同じ内容での報告依頼があり、暑い7月9日、環境エネルギー政策研究所のTさんのあとに報告しました。実践的、具体的取組みに関心が高かったようで、自由に質疑応答ができるミニシンポジウムでした。



そして今回9月10日の講座になり、人と社会のつながりの大切さに感激しました。11月には野田市と船橋市でも報告予定です。

講座後の感想を含め、今、特に強く思っていることを書きだしました。

- a : 次世代の自然（再生可能）エネルギーが原発に替わる」まで相当の年数がかかり、まずは「省エネ」、次は太陽光発電などの「創エネ」の順、節電は「省エネの一部」
- b : 太陽光発電はまだ高価、補助金を上手に利用して早めに設置したほうが、次世代への心配りができ、CO2削減などの環境保全に貢献できる。
- c : 太陽光発電は価格に釣られることなく、新機能などに注意しながら、実績ある国産品の選択が賢明で、思った時が設置のチャンス。
- d : 一方、太陽光発電は普及促進政策などでさらに値下がりが見込め、それより住まいの省エネ化を先にしたお金の使い道が正しいとする意見もある。
家庭の事情もあるが、省エネと創エネをバランス良く進めるのが良いと思う
- e : 電気は電力会社から買うのみと思いつけてきたが、太陽光発電を設置して発電し、電力会社へ売電すると、電気の自給が視野に入り、売電を多くしようと自然に省エネ（節電）に力が入る。
- f : 普段の生活の中心の「住まいの省エネ」をすれば、健康に影響あるエアコンの温度設定を気にしなくても良いのに、まるでそれが唯一の方法かのような節電普及施策は間違い。
- g : 省エネは、夏の冷房より冬の暖房や給湯に着目し、住まいの窓や断熱の弱い部分の改善がポイント。（冬の暖房は、夏の冷房の10倍以上のエネルギーを使っている）
- h : 現在ほとんどの住まい（住宅）は、壮大なエネルギーの無駄使い中。なんとかこれを多くの人に意識してもらい改善に努めることが重要。
- i : 創エネ・省エネ設備の費用回収は、太陽光発電など売電分だけでなく、住まいの省エネを含めた総合力で行うと早く回収できる。したがって簡単な部分は自分で実行すれば初期費用負担が極めて少なくなる。
- j : 今まではエネルギーと資源の無駄使いが多いことから、既に次世代に借りがあり、その借りを早く返すという考えを普及させたい。
- k : 「環境保全は次世代・明日への助け合い」国と地方の莫大な借金と同じにならないようにしたい。
- l : 小生の場合、太陽光発電を導入したことで、それより5倍ぐらいの発電能力（*）と安定性があり日本の国情（限りなく多い中小河川や疏水すなわち農業用水）にマッチした「小水力発電」のポテンシャル大きさに気付いた。
（*例えば、小水力発電1kWは太陽光発電の5kWに相当）
- m : 何でも良いから「実行」とすると、次のステップでは、より中身のある質の高い実行につながる。実行がいかに大事かが理解できる。
- n : 今後も、市民自ら実践できる効果的な省エネ・創エネを提案していきたい。

第4回市民環境講座

平成23年10月9日実施

緑のカーテン普及・成果の集い

於 流山市南流山センター



5月3日のグリーンフェスティバルにおいてゴーヤの苗の配布が行われた。この夏、流山市内は家々の窓辺に緑のカーテンの揺れる風景が見られた。8月、温暖化防止ながれやまは、その葉陰の温度測定や省エネ調査を実施した。そして、10月9日(日)

第4回市民環境講座「緑のカーテン普及・成果の集い」を迎えた。

開会、江口環境部長の「この夏は、緑のカーテンの葉影の清涼感、植物を育てる楽しみ、実の収穫など緑のカーテンを楽しんだことと思います」と挨拶されたあと、続いて表彰式が行われた。

緑のカーテン写真コンテストは今年、4回目を迎える。年々大勢の方々の応募があり、緑のカーテンへの関心の高さが示されている。どの写真もゴーヤ屋敷？の見事な流山風景の写真であった。今年の実賞は個人部門3名、事務所部門3団体で、江口環境部長から表彰状が手渡された。

- | | | |
|-------|-------|----------|
| 個人部門 | 金賞 | 小坂真紀枝さん |
| | 銀賞 | 平手 彰さん |
| | アイデア賞 | 金田 剛さん |
| 事務所部門 | 金賞 | 駒木台第一自治会 |
| | 銀賞 | 八木北小学校 |
| | 銅賞 | 江戸川台西自治会 |

昨年からはまったゴーヤの実で作るアイデアレシピコンテスト、いかにゴーヤのあの苦みを消して、おいしく、食欲を誘うようにと、どの作品も努力のあとが見える。ゴーヤレシピコンテストの実賞者は3名であった。

- | | | |
|----|---------|----------|
| 金賞 | 高橋富子さん | ゴーヤ入りチジミ |
| 銀賞 | 望月繁子さん | ゴーヤクッキー |
| 銅賞 | 米満美津子さん | ゴーヤの漬物 |



緑のカーテンは地域の輪

この夏、緑のカーテンづくりに町ぐるみで取り組んだ自治会が多かった。その中で3自治会から「緑のカーテン成果の報告」がされた。

南流山自治会・山崎会長「自治会館は殺風景である。ゴーヤを植えようと。会員の協力で実現した。毎日多くの会員が集い、つながりが強まった。ゴーヤは人々に安らぎと清涼感を与える。来年も是非にという声も上がっている」（写真：上段）

宮園自治会（ふれあいの会）松本会長「この春、温暖化防止ながれやまの出前講座を開催した。その時ゴーヤの苗を配布した。大震災による節電が叫ばれる中、この企画は大成功であった。これを機会にゴーヤを育てる家庭が増えた。ゴーヤを通して風が涼しい、実も食べられる、2倍3倍の楽しさであった。」須藤副会長「宮園地域にある池は流山野鳥の池（親水公園）として整備され、このたび進行式を迎えた。この中でゴーヤの明るい輪が広がった」（写真：中段）

美田自治会・杉浦副会長「グリーンカーテンとグリーンバス、涼しさと地域の輪をつなげてすでに3年目に入った。平成21年、ストップ温暖化、一村一品、千葉県大会で受賞の栄に輝いた。ゴーヤは節電だけでなく、CO2削減、省エネ効果も抜群であった。ゴーヤを育てることは地域の輪を広げてゆくことにつながっている」（写真：下段）



講演 ゴーヤカーテン普及構想

ゴーヤカーテン普及促進協議会会長 松島英雄



緑のカーテン写真コンテスト、ゴーヤレシピコンテストに受賞された方々、おめでとうございます。ゴーヤカーテン普及促進協議会も設立半年を迎えております。今年、協議会は大震災による節電を叫ばれたこともあり、注目されました。緑のカーテンは省エネ、CO2削減などに大きな効果をもたらしたと考えます。

この取り組みはマスコミにも大変注目され、流山ゴーヤカーテンとして、NHK、フジテレビの特バンで取材をうけ、また地元コアラテレビでは特集番組で放送され、新聞でも各紙いろいろと取り上げられました。流山市の取り組みが評価されたこと、うれしい悲鳴でした。

今後の方針として、「流山ゴーヤの街」としてアピールしていこう。街中にゴーヤカーテン設置の家庭や事務所を増やしていこう。

- 1、 ゴーヤは健康に良い、血糖値が下がったという声も聞く
- 2、 今後は種を収穫し、その種からもっとゴーヤの輪を広げよう
- 3、 ゴーヤの正しい栽培方法の講習会を開催していきたい
- 4、 ゴーヤ料理は大変おいしい、レシピの講習会を設けていきたい

講演 ゴーヤレシピはおいしいよ

Riseup 須貝千春（栄養士）



ゴーヤは苦い、きれいという先入観があって、ゴーヤ料理はもちろん、栽培にも取り組まないという人が多い。ゴーヤの素晴らしさを再認識してほしいと思います。ゴーヤには育てる楽しさ、窓辺の清涼感、結実した時の喜び、ゴーヤ料理を食べる家族の笑顔という喜びがあります。苦みが気になる方は種を丁寧に取り除くことを心がけてください。健康野菜であるゴーヤはカルシウムやカリウム、ビタミンC、βカロチンを豊富に含んでいて、調理しても、またゴーヤ茶として飲み物としても、からだに良く、コレステロールや中性脂肪が気になる方には、とてもお勧めです。ゴーヤの実の保存方法は乾燥などのほか、冷凍保存ができます。ゴーヤを縦半分に切り、わたをとりスライスして冷凍庫に入れ、端境期でも食することができます。



簡単ゴーヤレシピ

材料 ゴーヤ
シーチキン

ゴーヤは種と白いところを良く取り、水に晒す。
シーチキンの油でさっと炒める。



ゴーヤレシピ試食会

「緑のカーテン普及・成果の集い」のフィナーレは「ゴーヤレシピ試食会」

Riseup 実行委員会と美田自治会の有志による手作りのゴーヤづくしの料理に「おいしい」「おいしい」という声の方々から聞こえた。レシピは2品で「ゴーヤとナッツのカリカリしょうゆ煮」「ゴーヤの中華炒め」それにゴーヤ茶のサービスも加わって、参加者は「見た目以上においしかった。来年の夏はゴーヤを育て、収穫の楽しさを味わい、ゴーヤ料理に挑戦したい」と語っていた。



編集後記

10月31日の今日、ついに世界の人口が70億人に達したという。21世紀末には100億人を超えると見込まれるという。地球温暖化によって砂漠化が進んでいる地方がある一方、洪水や気象の変化などで耕地は狭められている。今後、食糧事情はどのようなのであろうか、日本の食糧自給率は4割に満たないという。

石垣幸子